

一四二 請負普請入用銀渡方之覺

一、堀松村平七郎組大念寺新村、諸役御免之所に候得共、唯今は家數も多成候に付、爲冥加先年より歛手米爲指出申候。新川郡瀬戸村之儀も右之趣に候得共、畢竟歛手可爲指出儀之事。

一、普請五步通出來之節、惣銀高之内三步相渡し、八步通出來之節五步相渡し、不殘出來之節殘銀高皆々相渡候格也。

一、用水普請之儀、古格水下に不限、惣而其郡手ふり・組持御扶持人等何茂立會、吟味之上申付管之事。

一、古來は御收納に山河共に割込也。改作に成候以後山河指除申候。定小物成は山河役等也と、毛利又太夫咄之由。右四ヶ條大塚彌五太夫物語之内也。

一四三 領國米津出之事

覺

一、來年御領國賣買米等津出之儀、相願次第滯申儀有之間

敷事候所、頃日諸浦出船、所浦方に不限、其外獵場之所々獵船杯に而、夜中も密々に賣買米等五石・三石充に不限積出、他國・他領等に出申沙汰有之候事。

右之趣見聞次第指留候はゞ、塩改人同事に押米可被下旨候條、陰聞を以遂吟味、尤無心許趣候はゞ早速可及斷事。

十二月廿五日

寺西 半右衛門
吉田 宅右衛門

右東海老坂村又兵衛・石佛村平七郎・大澤村儀右衛門・三階村六郎右衛門・杉木新町儀左衛門等々に紙面蔭聞之儀申遣、今江村源助・福富村間兵衛・淵上村源五郎には、口上に而於御隱密所申渡。

一、日用賣銀直段上げ申儀は、割場より御算用場へ遂示談、御算用場へ而承知之上、御用番にも相達相極り候古格也。

一四四 知行收納米皆濟狀之事

微妙院様御時分より、今以何茂直判仕候間、向後も彌可被得其意候。他國に有之面々は各別、其外は家來判形に而出

不申様、各組中に可被申觸候。恐惶謹言。

十一月晦日

前田 對馬
今枝 民部
奥村 河内 煩

與頭 中

一四五 百姓地之内居屋敷下屋敷等に相渡候格

何村領百姓地之内、居屋敷・下屋敷等に拜領仕度旨、御普請會所に願書付出之候得ば、願所繪圖に記、相渡候而茂指支申儀も無之哉之旨御算用場へ申達、指支不申趣十村等書付御申付被指越候得ば、所之儀相伺可被下旨被仰出候上、十村并村肝煎等相見を以打渡。所により地形り有之、拜領歩高之内に難成空地出來、日蔭に罷成田畠に難成、百姓及迷惑候得者、於其所致僉議、其歩高不殘御普請會所に取上、百姓方に者替步地子米相渡、右空地之分屋敷請取人の請地申付候格に御座候。然共御算用場へ相達申儀無御座候。尤御年寄衆より御算用場へ御紙面等相渡り申儀、及承不申候。

今般は先達而歩高等、御算用場へ御年寄衆より被仰渡由に付、空地出來之分も御届申候間、左様御心得可有之候。以上。

子七月廿六日

御普請會所
御算用場

右横山大和守殿下屋敷續牛坂村領之内四千歩計相渡りかけの方空地出來之所、二千歩計請地に相成候に付右之通也。

一四六 十村等百姓に手鎖付置候

日數之事

一、十村共手前に而百姓手鎖付置儀、十日越候程之者は奉行所に及斷候様に、先年一統申渡候由、熊谷四郎兵衛物語也。

一四七 十村被仰付候儀伺

羽咋郡組持御扶持人十村荻谷村

七 左 衛 門